

日本ナショナルチーム石垣島に集結

ITUワールドカップ石垣島大会直前情報1

ナショナルチーム9名。 北京に向けて活躍を誓う

4月16日(日)に行われるITUワールドカップ石垣島大会に先立ち、14日(金)、石垣市にあるホテルミヤヒラで、2006年第1次日本ナショナルチームの記者会見が行われた。

山本光宏JTU事業広報委員会副委員長の司会により、まず中山正夫JTU理事がナショナルチームの成り立ちとメンバーを紹介、その後、オフィシャルトップスポンサーであるNTT西日本の松本順一広報室総括担当部長から、選手達に対する期待とスポンサーからメディア各社へのお願いが話された。

そして、選手一人ひとりから、ナショナルチームへの豊富と今後についてコメントがあった後、オリンピックと世界選手権の違いや、北京オリンピックに対する意気込み、さらに、自分自身の北京へのキャッチフレーズなどが質疑応答のなかで聞かれ、和やかなうちに記者会見は終了した。

明日15日(土)には、16日に行われる主力選手の記者発表が行われる。そして明後日、いよいよ2006年、日本のトライアスロンシーズンの開幕を告げるITUワールドカップ石垣島大会がスタートする。



庭田清美

(アシックス・ザバス)



自分の力を精一杯出して、一所懸命走る。今年35歳になるがまだまだ進化している。まだ向上心があり、挑戦をテーマに毎日トレーニングしている。北京までに、まだ、2段階、3段階強くなる。

北京へのキャッチフレーズ：
進化するオバサン

関根明子

(NTT東日本・NTT西日本)



シドニーとアテネを経験し、いつのまにかベテランの域に達した。まだ進化して、選手として完成させていきたいと思う。尊敬する三宅義信JTU副会長の言うように、オリンピックの勝負に勝ちたい。

北京へのキャッチフレーズ：
自分の殻を打ち破る

中西真知子

(NTT東日本・NTT西日本)



北京に向けて、ナショナルチームの一員になれてうれしい。昨年は納得のいかない1年だった。最近はトレーニングが楽しいし、コーチや家族をはじめ、私を支えてくれている人に感謝しながら、日曜のレースを戦いたい。

北京へのキャッチフレーズ：
努力の成果



日本ナショナルチーム石垣島に集結

ITUワールドカップ石垣島大会直前情報1

忽那静香

(日東紅茶・TEAM KEN'S・A&A)



2008年の北京に向けての重要な大会がこの大会。これから一つひとつステップアップしていきたく。努力して実力をのばしていきたく。私は努力することしかできないので、雑草根性で頑張りたい。

北京へのキャッチフレーズ：
地道にコツコツ

上田藍

(グリーンタワー・稲毛インター)



昨年この大会には、捻挫をしまして、スタートラインに立つことすらできなかった。今後はワールドカップをはじめ、世界で戦えるようにして、北京のときにはなくてはならない選手だと言われるようになりたい。

北京へのキャッチフレーズ：
挑戦

山本淳一

(K's-Y・グリーンタワー・稲毛インター)



メンバーに選ばれた男子の中で最年長なので、自覚をもってチームを引っ張っていきたく。男子選手の成績は振っていないので、まずこの石垣大会でしっかり力を発揮したい。

北京へのキャッチフレーズ：
スピードキング

平野司

(NTT東日本・NTT西日本・Weider)



今年のはじめて海外で2カ月間トレーニングを続けてきた。体調がとてもよいので、レースは頑張っていきたい。ナショナルチームができたので、オリンピックでメダルをとって、日本のトライアスロンを盛り上げたい。

北京へのキャッチフレーズ：
伝説の男

田山寛豪

(チームテイケイ)



明後日は自信と余裕をテーマに戦いたい。北京オリンピックでは、アテネ・オリンピックでやり残したことがあるので、それを実現させるために頑張っていきたい。

北京へのキャッチフレーズ：
世界一の笑顔

細田雄一

(Weider・speedo)



平野選手とオーストラリアでトレーニングをしてきたので、いい結果が出せると思う。北京へはナショナルチームで切磋琢磨しながらお互いのレベルを上げていきたい。

北京へのキャッチフレーズ：
挑戦

